

フォト通信

左上から下へ。丸子ドンコのテントで東京丸子会のみなさんと一緒に。8月15日恒例となっている終戦の日上田駅前での街頭宣伝。高村県議、成瀬拓市議、古市順子市議らと。まるこベルシティまつりで中央病院前の特設ステージでの信州プロレスのみなさん。お医者さんや公務員の方も参戦(笑)。一番下の左が我が家で買い始めたニワトリ。ようやく卵を産み始めました。

右側上から下へ。武石夏祭りで演奏する飛龍太鼓のみなさん。防災啓発ドキュメンタリー映画「いつか君の花明かりには」上映会で小川光一監督(右)。第4回消防夏まつりでおもてなし武将隊のみなさんと。



第57回信州上田丸子夏期大学



8月22日から9月19日まで、第57回信州上田丸子夏期大学が5回に分けて開催された。この夏期大学の歴史は古く第1回は1963年(昭和38年)でメインテーマは、「日本経済(中小企業)をめぐる学習をどう進めるか」で、

講師陣は長洲一二氏(横浜国大学教授)など6人。長洲氏は1975年から1995年まで5期20年間神奈川県知事を務めた方です。

今年の第1回の講師は、(一般社団法人)持続可能な地域社会総合研究所所長の藤山浩(ふじやま こう)氏。テーマは、地元を創り直す時代～長続きする地域の主人公は住民～

講演のポイントは、*「が見えないくらし」①全国的な田園回帰 ②人口の1%を取り戻す ③所得の1%を取り戻す ④「合わせ技」の組織と拠点 ⑤地元ぐるみでお達者実現 ⑥新しい地域運営と行政 ⑦循環型社会へ進化 にそって全国の具体例をあげてわかりやすい講演でした。印象的だったのは、参加者からの質問に答えて、「いまの中央政府には期待しても無理がある。それは、これからも経済成長できると思っているから。そして、これまで経済成長の恩恵を受けた人たちが政策を決めている。地方から持続可能な社会づくりを進めていくしかない」といった趣旨の発言でした。納得しました。

加賀百万石の城下町金沢へ



お盆明けに、三男いる金沢市へ行った。子どものお勧めで「ヤマト醤油味噌の工場兼店舗」を見学した。お客さんもかなりいて観光できるスポットらしい。売店では、味噌、醤油、お菓子など自社製品がたくさん並べられていた。

特徴は、希望によるガイド付きの案内と体験できるコーナーがあること。また、軽食・喫茶ができるスペースも用意されていた。

ガイドツアーは無料ですが、決まった時間帯があります。女将さんが案内してくれました。大昔から発酵食品として日本人に親しまれてきた味噌、醤油、麴(こうじ)などの食品が食卓から少なくなっている。社会見学にきた子どもに聞くとお味噌汁を朝飲んできた子どもは1~2割程度。発酵食品の良さが再評価されつつあるが、道半ばとのことでした。

上田市でも5月に発酵祭りが柳町で行われており、農林部も力を入れているが今後の展開にも注目されます。

